東近江市の里山保育

2018/10/22

滋賀県 東近江市 市民環境部 森と水政策課 兼 河辺いきものの森 丸橋裕一





里山保育を始めるきっかけとなった2つの課題

①市民による里山保全活動の目標の喪失

東近江市には<mark>里山保全活動団体</mark>が20団体以上あり、 里山の保全にはたいへん熱心な気風がある。

しかし、多くの団体は、5年~10年経過すると 当初の目標(茂りすぎた木を伐り明るい森にする)を 達成してしまう。

目標に到達すると、「やりがい」を無くしたり、 共有できる次の目標を喪失したりすることで、 活動がストップするケースが出てきている。

②特定の場所・条件でしか森を楽しめない子どもたち

河辺いきものの森は、子どもたちが森に親しみ、 環境学習を行う場として、年間約1万人、300回 程度の活動を実施。

しかし、同森での活動には欠点が2つある。

- (1) 同森に来ないと体験できない。 市内には身近な自然がたくさんあるのに、そこでは 楽しめないと、子どもも保護者も考えている。
- (2)子どもにそういう体験をさせたいと考える 保護者の子どもしか体験する機会が無い。

これらの課題を解決するため「里山保育」(2015年度より)

保育園や幼稚園等の近くにある里山に、四季を通じて複数回、河辺いきものの森の職員が園児を連れて行き様々な活動を行う。

主に5歳児クラスを対象に、1年間に8~10回活動。1回の活動時間は2時間程度(給食までには帰園)。

1年に1園ずつ増やして実施してきており、現在は公立4園 (約150人)で計44回実施中。

- ①里山保全活動団体にとっては、「自分たちの守る森に子どもが 来るならもっとがんばろう!」という気持ちが芽生えた。
- ②園の近くの里山(=普段の生活圏)で繰り返し活動したことで、 お休みの日に保護者と里山などに出かけるようになるなど、 自然に対する関心が低かった保護者の価値観や行動にも影響を 与えた。

里山保育の基本的な実施パターン



まず室内でお話をし、子どもの気持ちを 盛り上げる



「探検カード」をもって、 探検に行く



実施を重ねるに連れ、 田んぼの横のあぜ道や、 ちょっとした水路など でも実施できるように なり、実施可能な園の 選択肢が増えた。

立派な森がなくても、 園の周りの身近な自然 で実施できるのが里山 保育の特徴。 里山保育を保護者が理解し、応援してくれるようにするため、 活動後、毎回欠かさず通信を発行(対象園児の保護者全員に配布)



里山保育の最大の課題は実施スタッフの確保

そこで、今年度から「子ども学科」のある地元の大学と連携し、 保育士等の卵たちに、里山保育のサポートに来てもらう仕組みを 作った。

- ①私たちにとっては、現場でのサポートスタッフが増える。
- ②学生にとっては、通常の 保育実習では行わない体験 ができる。
- ③大学にとっては、形にすることが難しい「官学連携」が体現できる。
- ④市にとっては「そんな保育をする東近江市の保育士になりたい」と考える学生が増えれば、「思い」を持つ保育士の確保につながる。



